奉者、今案、進物所御厨子所供膳不足九種、先申其由於藏人、然後供進、又御精進時者、内膳司及上御厨子所等辨備供進也、○中略

酉一剋供夕膳事

藏人式云、申二剋供夕膳、其同朝膳者、今案年來日記、以酉一剋爲夕膳剋、餘同朝、○下略

〔日中行事〕朝の御膳は午刻也、それよりさき日つぎ御にへまいらせたらば、小庭の御ものだなにをく、申の刻に夕の御飯まいる、其さほう朝におなじ、四月賀茂の祭の日は、ひるを供ずる也、御膳はて、殿上夕の臺盤あしたに同じ、

〔日本書紀十四雄略〕十七年三月戊寅、詔土師連等、使進應盛朝夕御膳清器、

〔九條殿遺誡〕次朝暮膳、如常勿多飡飲、又不待時剋、不可食之、詩云、戰々慄々、日愼一日、如臨深淵、如履薄氷、長久之謀、能保天年、

〔御湯殿の上の日記〕慶長九年三月十九日、けふより御せんくはじまる、○中略あか月よりはじまる、御かゆまゐる、朝く御まいる、ひる折くもじまいる、夕かたく御まいる、七時分にはつる、廿日、けふもあか月よりはじまる、御かゆく御きのふとおなじ、

〔源平盛衰記十六〕遷都附將軍塚附司天臺事

法皇○後白河ヲバ、福原ニ三間ナル板屋ヲ造テ、四面ニ波多板シ廻シテ、南ニ向テ口一ツ開タルニゾ居ヘ進ケル、筑紫武士石戸ノ諸卿種直ガ子ニ、佐原ノ大夫種益奉守護ケリ、一日ニ二度如形供御ヲ進セケリ、

〔厨事類記一〕内御方

晝御膳　高盛七坏　平盛一坏　御汁物二坏土器　燒物二坏

已上魚味、盛土器、以内膳司所進、近年日別鮑二連添之當旬番衆於御厨子所請取之盛進也、但六齋、御齊會、